

梅花短大 ○川端澄子

鳴門教育大 藤原康晴

目的 「意味類似による服装表現用語の分類」に選出された60語を用いて、実際の服装の評価を行った。その評価の結果をクラスター分析し、前報の意味類似に基づいて算出されたクラスターと対応させて服装を表現する用語の分類を2つの方向から検討した。

方法 短大生がキャンパスで着用している服装を雑誌より選び、その中からタイプの異なる服装を8種類選んだ。それをスライドで映写し、評定者(短大生18~20才、90名)に1枚ずつ提示し、60個の用語で「あてはまる」「あてはまらない」「どちらともいえない」で評価してもらった。その結果得られた相関係数マトリックスをインプットデータとしてRモードクラスター分析を行った。

結果 8種類の服装を60の用語で評価し、クラスター分析した結果、意味類似によって分類した場合のように、デンドログラムのある類似率を基準としていくつかのクラスターに分けることは困難であったが、比較的まとまりのよい7個のクラスターを見出すことができた。この7クラスターのうち、6クラスターは意味類似によって得られたクラスターとだいたい同じ評価用語から構成されており、実際の服装を観察して評定してもらった結果と、用語の意味類似性から得られた結果がほぼ同じ構造になることがわかった。しかし、これらクラスターの高次構造は、意味類似によって得られた場合とはかなり異なっており、服装評価の複雑性が示唆された。